



2020年度  
第44号

# 体育市民連帯 ニュースレター

1  
体育市民連帯緊急論評  
大韓アイスホッケー協会  
選挙について  
体育市民連帯の立場

2  
アイスホッケー協会長当選  
「崔チョルウォン禁止法」  
出るか

3  
殴り代暴行 崔チョルウォン  
アイスホッケー協会  
会長当選嘆かわしい

4  
一ヶ月後に迫った  
「体育大統領」選挙...  
最大の争点は

5  
大韓体育会長候補  
カン・シヌク教授  
“スポーツ界の改革は  
体育人の手で”

6  
韓国体育の  
新しい100年のための  
リーダーシップが必要

7  
新日本スポーツ連盟  
「スポーツのひろば」  
スポーツにおける  
怒らない指導を

8  
スポーツ界の問題、  
人文哲学的に解決しよう

9  
子供のための  
「考えるスポーツ人権  
教科書」出版

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



2020. 12. 17

## 01 「体育市民連帯緊急論評」

### 大韓アイスホッケー協会選挙について体育市民連帯の立場

「私たちの会長は一発 100 万ウォン級の暴行当事者だよ。拘束されて人々がものすごく悪口を言った人なのに財閥だから大丈夫、金があるから大丈夫... . . . 」

確かに恥ずかしいことが現実になりました。殴り代暴行（訳注下記）で国民的怒りを買った当事者が大韓アイスホッケー協会長に堂々と当選しました。不謹慎なことをしても金を持ってくる財閥なら体育団体長になれるという不名誉な事例を大きく残しました。アイスホッケー協会は深刻な社会的物議を起こしても会長に引き立てました。協会の定款は見せかけだけ紙切れに過ぎず、むしろ免罪符を与えました。重要な定款を破ったので、管理団体として指定されてもおかしくないアイスホッケー協会です。

大韓体育会は会員種目団体の規定 26 条 12 項に基づき承認を拒否しなければなりません。深刻な社会的物議をかもした者は役員となれない原則を忠実に守らなければなりません。もし、大韓体育会が明確な規定にかかわらず、自らの役割を果たさない場合「やはりザリガニはカニに味方する」という非難を免れないでしょう。国民の税金 4000 億を受け取っていても、これすらもできなければ存在理由がありません。文化体育観光部はその責任を果たさなければなりません。人権に配慮し倫理的スポーツ文化を造成し、透明で公正なスポーツ団体運営のための管理監督の責任を果たさなければなりません。このような恥ずべき事をただ眺めているしかない国民とスポーツ界に悪い信号を与えてはいけません。子供たちに合わす顔のない国であってはなりません。公正かつ正義の大韓民国である事をあきらめてはなりません。

2020. 12. 17

### 体育市民連帯

[https://www.facebook.com/permalink.php?story\\_fbid=1111604502623847&id=269816096802696](https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=1111604502623847&id=269816096802696)

訳注：崔哲源は SK グループの創業者の甥であり M&M グループの会長。2010 年 10 月 SK 本社前で雇用継続を訴えて一人デモをしに来た運転士を自分の事務室に呼び出して金属バットで 13 回も殴るなど暴行して全治 2 週間の負傷を与えた。この事実が報道されたとき、殴られた代価として 2000 万ウォンを受け取るという覚書きを書かせたということが明かにされて大きい非難の世論が起こった。崔代表は 1 審で懲役 1 年 6 ヶ月の実刑宣告を受け、2 審で執行猶予を受けて釈放された。

この事件は映画「ベテラン」のモチーフとなり、2015 年の観客動員は 1300 万人を越した。財閥への不満の高まりは経済格差によるものだけでなく、同時期に起きたナッツリターン事件のように財閥幹部の横暴な振る舞いが反感を買ったからでもある。

## 02 JTBC ニュース 2020. 12. 18

### 結局、アイスホッケー協会会長当選 「崔チョルウォン禁止法」出るか



[アンカー]

映画「ベテラン」の素材となった「殴り代暴行事件」の当事者である崔チョルウォンM&M（マイトアンドメイン）代表が昨日（17日）、アイスホッケー協会会長に当選しました。暴行前科でも最終的に体育団体会長に上がり、政界では「崔チョルウォン禁止法」の話まで出ています。李宣和記者です。

[記者]

候補資格論争にもかかわらず、崔チョルウォン氏への支持は圧倒的でした。82票のうち62票を獲得しました。SKグループ崔泰源会長の従弟で、アイスリンクをより作り実業チームも結成するなど期待が集まりました。すると市民団体からは緊急論評が出ました。

【ホ・ジョンフン/ 体育市民連帯共同代表：悪質なことをしても金を持っている財閥なら体育団体会長になれるという恥ずかしい事例を大きく残したものです。】

政界では「崔チョルウォン禁止法」の話も出てきました。今後、前科があったら体育団体の会長に挑戦しないように仕組みを作るということです。大韓体育会の規定によると、社会的物議を起こした者は体育団体の役員になることができないが、体育会はこれまで「承認要請が入らなかった」と特別な動きを見せていません。

【アン・ミンソク/共に民主党議員：(李ギフン) 大韓体育会会長からして、このような前科者だから。傘下の協会会長が前科者であるのも容認されるということでしょう。】

崔氏は来月末までに体育会の承認を受けて会長の任期を開始することができます。文体部は「大韓体育会が「厳格な判断」をするよう要請しました。

出典：[http://news.jtbc.joins.com/article/article.aspx?news\\_id=NB11984432](http://news.jtbc.joins.com/article/article.aspx?news_id=NB11984432)

## 03 Law Leader 2020. 12. 18

### アン・ミンソク

#### “殴り代暴行 崔チョルウォンアイスホッケー協会会長当選嘆かわしい ... 「チェ・チョルウォン禁止法」“



国会文化体育観光委員会の委員長を務めたアン・ミンソク共に民主党国会議員は18日、いわゆる「殴り代暴行」の加害者崔チョルウォンM&M（マイトアンドメイン）代表が大韓アイスホッケー協会会長選挙に出馬して当選すると、「崔チョルウォン禁止法」を発議すると明らかにした。

崔チョルウォン代表は前日開かれた大韓アイスホッケー協会会長選挙で有効投票 82 表中 62 票を得て、第 24 代会長に当選した。

ところが、崔チョルウォン代表は 2010 年 SK 本社前で雇用継承を要求してデモをしていた貨物車両運転手を事務室に呼んで野球のバットで殴り、いわゆる「殴り代」として 2000 万ウォンを渡し、社会的公憤を買った。

この事件で裁判になり崔チョルウォン代表は 1 審で懲役 6 ヶ月を、2 審で懲役 1 年 6 ヶ月執行猶予 3 年を言い渡された。この事件は企業の暴行を扱った映画「ベテラン」の素材として活用された。

このように崔チョルウォン代表が大韓アイスホッケー協会会長に当選するや、アン・ミンソク議員は 18 日、フェイスブックに「“崔チョルウォン禁止法” 発議を即時検討すること！」と表明した。

アン・ミンソク議員は「“殴り代暴行” の加害者崔チョルウォン氏のアイスホッケー協会会長の圧倒的当選は衝撃的だ。恥ずかしくもある」とし「崔チョルウォンの出馬を放置した大韓体育会に責任を問わなければならない」と声を高めた。

アン議員は「スポーツ界の暴力根絶を叫んできた文体部は大韓体育会が崔チョルウォンの会長承認をしないように指導・監督しなければならない」とし「崔チョルウォンの会長承認を許さない事は、ムン・ジェイン政府のスポーツ人権意志を示す試金石となる」と述べた。

アン・ミンソク議員は「今後 4 年間、韓国体育をリードする、協会長選挙と大韓体育会長選挙が一ヶ月間実施される」とし「社会的規範として少なくとも崔チョルウォン氏のような反社会的犯罪を犯した前科者が会長になってはいけない」と強調した。

アン議員は「その前に、このような人は自ら立候補してはならず、体育人が選んではならないのである」とし「崔氏のアイスホッケー協会会長出馬と当選が深刻で嘆かわしい」と嘆いた。

アン・ミンソク議員は「スポーツ暴力性暴力事態の再発防止のためにも体育団体長は道徳が優先」とし「国民と体育人が容認できない犯罪を犯した前科者が出馬しないように制度的仕組みを用意しなければならない」と主張した。

アン・ミンソク議員はまた「性犯罪・スポーツ暴力など反社会的犯罪行為者は体育会長に立候補しないように出馬資格を制限し、大韓体育会や政府が承認を拒否して就任しないようにする“崔チョルウォン禁止法”を発議する」と明らかにした。

出典：<http://www.lawleader.co.kr/news/articleView.html?idxno=5575>

## 04 デイリアン 2020. 12. 18

### 一ヶ月後に迫った「体育大統領」選挙...最大の争点は何？

大韓民国エリート体育と生活体育を網羅する名実共に「体育大統領」大韓体育会長（第 41 代）を選ぶ選挙（2021. 1. 18）が一ヶ月後に迫ってきた。

年間 4000 億ウォンの予算を操るこの大韓体育会長は 2021 年以降の 4 年間、大韓民国体育と体育人の命運を担う。

去る 2016 年、大韓体育会と国民生活体育会を合わせた統合体育会の 2 大首長を選出する今回の選挙は、選挙人団投票で決定される。選挙人団は大韓体育会代議員、会員種目団体、17 の市道体育会、228 の市郡区

体育会選挙人候補者で構成される。来る 28～29 日の二日にわたって会長選挙に出馬する候補者の登録を受ける。

再選に挑戦する李ギフン会長に対抗するジャン・ヨンダル<sup>ウツク</sup>又石大名誉総長、ユ・ジュンサン大韓ヨット協会会長、カン・シヌク檀国大スポーツ科学大学国際スポーツ学部教授、ユン・ガンロ国際スポーツ研究院長が体育会長、国際オリンピック委員会（IOC）の選手委員を務めたムン・デソン、アジアオリンピック評議会（OCA）執行委員が出馬を宣言した。

### **越年する大韓オリンピック委員会（KOC）分離問題... 今回も最大の争点**

李ギフン会長は 2016 年 10 月に統合体育会の初代会長に選出された。次期体育会長選挙出馬宣言で現在、職務停止状態である李ギフン会長は鎮川選手村移転、平昌五輪の参加、体育教育センター開所、最初の民選市道会長選出など大型業務を遂行した。

国際オリンピック委員会（IOC）委員になる栄光も受けた。李ギフン会長は「体育を通じて多くのことを得た。体育人の協力と支援で大きな仕事をするのができた」と語った。

しかし、ショートトラック趙ジェボム元コーチの出来事、トライアスロン崔スクヒョン選手の死を防げなかったという激しい批判を浴びた。制度的に暴力事件を根絶できず、何度も頭を下げたし、国会に呼び出され叱責を聞いた。

大韓オリンピック委員会（KOC）分離問題をめぐっては文化体育観光部とも対立している。KOC 分離するかどうかはスポーツ界の長年の問題だが、スポーツ人権とともに今回の選挙の最大の争点に浮上した。

大韓体育会が KOC を包括しながら、予算や組織がオリンピックなど国際大会の成績に集中するという批判を受けた。今は分離して KOC はオリンピック選手団派遣や国際大会に焦点を当て、大韓体育会は生活体育などを強化して勝利至上主義の文化を破らなければならないというのが文化体育観光部の主張だ。

大韓体育会はこれまで李ギフン会長を中心にオリンピック憲章、国家オリンピック委員会（NOC）の自律性の侵害などを根拠に反発してきた。李ギフン会長側は「今は KOC 分離ではなく大統合が必要な時だ。体育業務を担当する部署があまりにも多い。重複しない効率的な投資と体育専門家の一貫性のある体育政策を立てるために、統合システムを維持しなければならない」と主張している。

李ギフン体制に反対するジャン・ヨンダル（72）又石大名誉総長は現体制と鋭く対立する候補だ。

14, 15, 16, 17 代国会議員を務めたチャン総長は開かれたウリ党最高委員、大韓バレーボール協会会長などを歴任した。

「政府を相手に大韓体育会が対立するのではなく、協力関係を回復しなければならない」と強調しているジャン総長は李ギフン会長とは正反対の立場をうち出した。

分離ではなく独立だと主張したジャン総長は「大韓体育会が KOC 分野を体育発展できると考えている。大韓体育会の分離反対は全国体育人に混乱だけ与えている」と診断した。オリンピックと関連した行政業務を独立させ、プロスポーツ、学校体育、生活体育は大韓体育会が担当して集中するようにしようという主張だ。

ジャン名誉総長は政府が李会長に厳重警告措置を下したことと関連し、「李会長が懲戒を受けた後、体育会と政府は反目状態を続けており、意思疎通が断絶された」とし「(李会長が) 再び会長選挙に出馬するのは自由だが、国民には全く心苦しい事」という表現まで使いながら、くぎを刺した。

再選の意志を明らかにした李ギフン会長を牽制するための野党一本化の意志も示した。

しかし一本化の力は弱いという分析だ。最大の争点となる KOC 分離についてカン・シヌク檀国大教授、ユン・ガンロ国際スポーツ外交研究院長、ユ・ジュンサン大韓ヨット協会らは李ギフン会長やジャン・ヨンダル名誉総長ほどの明確な色は出していない。18 日に出馬を宣言したムン・デソン執行委員の存在も一本化の未知数である。

一本化が行われて李ギフン対反李ギフンの構図が形成されるか、すぐに予測するのは難しいが、現在のところ「現役プレミアム」を抱えている李ギフン会長に友好的な票が多いスポーツ界内外の分析が優勢だ。

出典：<https://www.dailian.co.kr/news/view/947292/?sc=Naver>

## 05 スポーツソウル 2020. 12. 17

### 大韓体育会長候補 カン・シヌク教授“スポーツ界の改革は体育人の手で”



来年 1 月 18 日に行われる第 41 代大韓体育会長選挙に出馬票を投じたカン・シヌク檀国大スポーツ科学大学国際スポーツ学部教授は体育会の改革をテーマに掲げた。カン・シヌク教授は「長い時間体育会を支配してきた私物化された雰囲気国民を心配させている」とし「中核はシステムの問題もあるが、システムを乱れさせた人々の問題ではないかと思う。明らかなのは変化と革新が

必要な時点だという事だ。これを解決するために立候補を決意した」と明らかにした。

しかし外部からの改革には反対した。スポーツ界の改革は体育人自ら内部の力を引き出し果たすべきだと主張した。カン教授は「改革は絶えず行われなければならない。しかし、急進は反対だ。時間がかかっても着実に、外部ではなく内部からの改革をしなければならない」とスポーツ界の改革を強調した。また、「政治家がスポーツ界に飛び込むのは難しい。政治が助けてくれるのは自然だが主導してはならない。民選体育会が開始されたが大韓体育会も真の民選にならなければならない」と政界の過度な介入も警戒した。

スポーツソウルは 11 日、カン・シヌク教授に会って出馬理由と体育界の問題の診断、改革案などを聞いた。以下はカン・シヌク教授との一問一答。

#### - 現在の大韓体育会の具体的な運営の問題点は何だと思えますか？

同じ過ちが繰り返されるのは、システムに明らかに問題があるものであり、修正しようとする主体の意志や真正性が疑われる。体育会の誰も責任を負いません。3 無（無力、無所信、無責任）が広がっている。果たして誰がこのような状況を作ってしまったのか問い返してみなければならない。

#### - 体育界はスポーツ革新委員会（以下、革新委）の様々な勧告をめぐって様々な意見が出ている。さしあたりスポーツ革新委員会は学生の授業権問題などを解決するという目的のために、学生選手の平日大会禁止と週末の大会全面化を 2021 年までに実行するように勧告した。これに対する考えは？

革新委が行こうとする一定の方向は正しいと思う。革新委の努力と情熱に抵抗するものではない。方向は共感する。ただしディテールにおいて平日大会禁止などをもっと柔軟にして欲しい。スポーツ界の現場と もっと対話し考えて決定すべきである。内容を見るとすぐに求めるのではなく、種目や条件に応じて行う

ことができる状況に応じて調整するように明示されている。しかし現場では、強制執行と認識している。現場の声を聞くことが不足して生じたものだ。バツサリ切るような技術革新は思うほどの結果を得られない。しかしエリートスポーツ退化をもたらすものだという事もあまりに行き過ぎだ。

**- 革新委勧告について基本的に賛成だが方法論に問題があるという話に聞こえる。**

革新委問題を胸痛く考えるのは外部からの技術革新の要求が続いてきたという点だ。これはスポーツ界、大韓体育会が自ら革新しようとする意志が不足したためである。外部の要求や外部からの技術革新は目標やアジェンダが正しくても構成員の団結を損なう可能性が高い。葛藤を起こして望ましいほどにならない。

**- 今年最も尖鋭な対立の構図を形成しているのが大韓体育会と KOC の分離問題だ。政府主導の分離と体育人の統合意見が激しく分かれているが、これについての考えは**

分離と統合の議論は長いスポーツ界の話題だ。正解がどこにあるのか。世界各国の態度がみな違う。外国の事例に従うのではない。分離の問題は多くのアジェンダを吸い込むブラックホールだ。少し誇張された側面もある。分離されるとエリートスポーツが萎縮し、統合されれば葛藤が無いという論理は、巧みに本質を歪曲させる論理だ。

国民生活体育会が大韓体育会に吸収統合される過程で体育会は適切に仕事ができなかった。その仕事をよくしたら、その団体が生まれなかった。体育会が KOC の役割に集中しているので、国民全体のスポーツ活動に関心が少ない。エリート体育と国民生活体育とが関連してもっとバランス良くなればこのような問題は生じない。

**- 大韓体育会と KOC の分離案に賛成しているように見えるが。**

個人的な考えは分離側に近い。すでに私の論文などで明らかにした。しかしこのような考えは個人的なものだ。それを公論化して結論を出すのは慎重でなければならない。私も外部の人間だったし内部で真剣に悩まなければならない。教授カン・シヌクは分離をしたいが、当選すれば体育会長カン・シヌクは議論を公論の場に導き待たなければならない。

**- 体育会は風の静まる日がなかったほど事件や事故が多かった。各種暴力行為が依然として蔓延している。政府は 8 月にスポーツ人権センターを設立したが、まだ具体的な成果は出ていない。暴力根絶と選手の人権保護のための方策はどのようなことが最もよいと思いますか。**

軍隊でも暴力がなくなった。家庭でもしつけを目的としていたとは言え体罰など一般化されていたものが門を閉めた。ところが、まだスポーツ界に残っている。スポーツ界の閉鎖された構造。垂直的人間関係など様々な要因について話しが出るが皆その通りだ。ところが解決法はとんでもないところを探している。常時監視システムを作らなければならない。誰かが見ているという感じを作ろう。選手自身が指導者、父兄が自分たちを見ていると思わせるようなシステムを作らなければならない。問題が生じてから解決しようとするのではいけない。予防をしなければならない。常時監視の核心は 1 年に 2 回程度は大韓体育会登録のすべての選手は、ソーシャルネットワークを介して（性）暴力の経験の問題についての質問を受け、

必ず過去6ヶ月間の実態を知らせて必ず調査、機関長に通知して問題が発生した場合フォローアップをするようにしなければならない。

**- スポーツ界最大の懸案の一つが体育人雇用創出の問題だ。これに対する考えは？**

難しい問題だ。雇用自体が選手の指導をすべて受け入れるほど多くない。少ない雇用枠で熾烈な競争をする。雇用創出が必要である。バドミントンでは選手、学校生活エリートの好循環構造を成している。同好人が多いので講師はいつでも必要である。エリート側ではなく生活体育側でより必要としている。選手だった人は優秀なのでより多くの収入になる。サッカーもそのような点で他の種目よりもインフラがうまくいっている。スポーツの場（スポーツ生態系）が新しい雇用創出の場を開かなければならない。その場を開こうとしたら一般国民が楽しむ場を先に開かなければならない。

**- エリートスポーツが最近低迷しているという懸念の声が大きい。一部ではカン・シヌク教授が大韓体育会長に当選すればエリートスポーツが後退すると主張している。**

問題提起する人と議論する準備ができています。エリートスポーツは選手と指導者、彼らのために誰がより悩んで貢献をしたのか、それを見せたい。革新委案について包括的な賛成を反エリートだと言うのは敵味方に分ける考えだ。エリートスポーツ萎縮について述べたことはない。エリートスポーツ選手の傍から離れたことは無い。大学スポーツ協議会執行委員長を7年しながら予算10億を130億に増やしてきた。その中の3分の2は大学運動部支援事業に使われた。解放後初めてできた支援事業である。激しく議論し彼ら（政府）を説得した。大学スポーツはスポーツ界の腰を支えている。ところが、大学のスポーツがますますなくなっているときに（エリートスポーツ萎縮を主張した）彼らは何したのか聞きたい。

**- 体育会長出馬宣言をしながら体育人が体育を導くと強調した。どのような意味なのか。**

体育人は運動を直接したり、選手を指導したり、研究した人々を体育人と定義したい。競技人、政治家であることもある。彼らが新しい100年の主役になってスポーツ界の問題の診断と処方を下せば現場中心の処方が出てくる。内部の問題は内部で解決しなければならない。体育人は少し賢くなくても、英明でなくても正々堂々として名誉を重視する。スポーツは有限競争だ。ルールがあり、従ってこそ競技になり、楽しむことができる。そこに内在化された人々である体育人は限界を越えない。

**- フィールドホッケー選手でありコーチもしたことを知っているが、その部分について話して下さい。**

ソウル大学でホッケーしたのが運動のか反問する人もいます。しかし、実際に最善を尽くして運動をした。学校の授業でもおろそかにしなかった。国家代表級のエリートたちは、「運動したと言ふな」と言うが、その方たちほど誇りがある。<sup>ジョンソン</sup>典農中学体育教師兼監督として初めて指導者生活をした。当時は運動が学業継続のモチーフになった。恐ろしく運動させたがそれが彼らのための道だと考えた。6ヶ月の運動後、春季大会で準優勝を占めた。以後、国大出身のコーチを使うこともしたが、そのまま任せておかなかった。訓練計画を一緒に組んで生活も一緒にした。龍山高校でも同じだった。

**- 地方体育会財政問題... 大韓体育会と地方体育会の関係設定は？**

大韓体育会が多くのお金を儲けて支援すればよいが不可能である。市郡区の予算が2兆なのに体育会の予算が4000億ウォンである。地方体育会と大韓体育会は事実、他の団体だ。上下関係ではない。体育予算が1兆7000億ウォンで全体の予算の0.33%程度だ。1%はなければならない。体育がその程度の役割はするのではないか。トト収益金を増やし地方体育会を支援しなければならない。しかしトトの収入を増やすことも容易ではない。予算が他のところにないか見つけてこれる金額を探さなければならない。

#### - 最後に呼びかけて言いたいことは？

ミスや誤りが繰り返されている。体育人として問題の解決をしなければならない。体育が政治と完全に分離することはできませんが、お互い共存する構造を作らなければならない。2032年ソウル・平壤オリンピック関連の政府・国民の関心は高い。開催関連の賛否は分かれるが、念願がより大きく見える。今行き詰まっている事は改善されると考える。

出典：<http://www.sportsseoul.com/news/read/993687?ref=naver>

## 06 朝鮮日報 ファン・スヨン学校体育振興研究会長 2020.12.17 韓国体育の新しい100年のためのリーダーシップが必要



今年は、韓国体育発展の中核的役割をしている大韓体育会が創立100周年を迎える年だ。韓国はこれまで世界5大スポーツイベント（冬・夏季オリンピック、ワールドカップサッカー大会、世界陸上選手権大会、世界水泳選手権大会）を成功的に開催してスポーツ強国となった。

しかし、いざ体育人の士気は地に落ちている。選手の人権蹂躪と過酷行為、性的暴行、競技団体の不正などで国民の冷ややかな視線が注がれた。このような弊害は体育人に大きな喪失感を抱か与え、選手たちの士気も下がった。しかし各体育団体は様々な事故に対する消極的な対応と不実調査、不十分な事後措置等に無能だった。スポーツ界の慢性的な弊害が明らかにもかかわらず誰も責任を負う人がいない。米国の場合、2016年ミシガン州立大学の体操選手性暴行犯に懲役60年を宣告し、米オリンピック委員長とミシガン大学総長が辞任したことがある。4年前にエリート体育と生活体育を管掌する機構が一つに統合されたが韓国体育の将来像についての公聴会は一度も正常に開かなかった。

来年1月、41代大韓体育会長選挙が実施される。体育人福祉・権益向上の要求が上昇しており、生活体育インフラ造成など急変する体育環境の中での体育会の役割がより重要になった。国際社会における韓国体育の地位にふさわしい人物が出なければならない。道徳の問題がある人は排除しなければならない。特に体育人の尊敬を受ける競技人出身者は選手たちについての理解に基づいて、選手の保護と競技力向上に貢献し、選手の暴力・性的暴行なども事前に予防できる実効性のある対策を用意することができるものと期待される。今回の選挙で韓国スポーツ界の新しい100年を開くリーダーシップを構築する必要がある。

出典：[https://www.chosun.com/opinion/podium/2020/12/17/WEYOD5SIGVFBHALFVM5CGWGX/?utm\\_source=naver&utm\\_medium=referral&utm\\_campaign=naver-news](https://www.chosun.com/opinion/podium/2020/12/17/WEYOD5SIGVFBHALFVM5CGWGX/?utm_source=naver&utm_medium=referral&utm_campaign=naver-news)

## 07 新日本スポーツ連盟「スポーツのひろば」2020年11月号

### スポーツにおける怒らない指導を



小学生から大学生まで、あるいは社会人やオリンピックをめざすナショナルチームまで、そこで指導する監督やコーチの暴力やセクハラ、パワハラなどの不祥事を度々新聞記事で見かけます。

昨年11月、大分県の小学生のバレーボールチームで指導者による体罰が問題になり、驚くことにこの事実を保護者全員が隠ぺいしていたことも発覚しました。なぜ、監督やコーチは教える時に殴ったり、蹴ったりするのか。子供たちは叩かれないと上手くなれないのか。

女子バレーボールの元日本代表益子直美さんは小学生を対象にしたバレーボール大会を開催しています。この大会の目玉は、監督・コーチが試合中に怒ってはいけないとされ、怒られたら益子さんに知らせるらしい。試合後に該当する監督・コーチに指導が入るそうです。

「怒らない指導が普及し、いつかこの怒らない大会が必要なくなる」のが目標で、益子さんは現役時代に褒められた経験がなくバレーボールは嫌いだったためこの大会をおもいついたらしい。怒られると子どもたちは委縮して本来持っている良さを発揮できなくなると言います。

西部ライオンズで監督を務めた渡辺久信さんは、就任1年目でリーグ制覇を成し遂げました。彼は著書「包容力」で「怒らないから選手は伸びる」と優勝したシーズンを振り返って述べています。「野球はミスが許されるスポーツ」なのでミスを許せる指導者になろうと。プロとアマの世界を同列にはおけないかも知れませんが、小中高生や社会人にも同じことが言えると思います。

監督・コーチの指導者は自分の思うとおりにならないからと言って殴る、蹴る、言葉で罵倒する指導の在り方が問われています。

新日本スポーツ連盟 福岡県連盟 事務局長 神田孝

## 08 経済新聞 2020.12.16

### スポーツ界の問題、人文哲学的に解決しよう

ソン・ガンヨン/東西大体育学科教授、前体育人材育成財団理事長



2019年1月。本当に歯がゆい日だった。オリンピックメダリストであり大韓民国ショートトラックの看板選手が高校2年生の時から3年以上、師に性的暴行を受けたと暴露したことである。唐国の軍隊でもあるかのようなニュースに「まさか」と努めて目をそらしたいほど衝撃的だった。「まさかと思う事が人を殺す」という俗説のように性的暴行の事実が明らかになると、ムン・ジェイン大統領はスポーツ分野の人権侵害実態と勝利至上主義による問題点を一つ一つ明らかにし根本的に改善するように指示した。

大統領の厳しい指示で昨年2月、市民団体、スポーツ人権、体育界などの民間委員15人と文化体育観光部長官、文部科学省大臣などの各省庁の次官5人が当然職委員として構成されたスポーツ革新委員会が発足

した。1年の間に100回を超える会議を通じてスポーツ「性暴力被害者の保護・支援システムの確立と体育団体の先進化のための構造改革」など計7回にわたり勧告を発表した。

どの政権かを問わず、スポーツ界で不正が発生したら根本的な問題から解決すると、率先して出ない政府はない。2014年、朴槿恵政府時代にもテコンドー選手の父親が審判不公平判定の悔しさに勝てず死亡すると、政府、警察、検察が連携した合同捜査班事務所を開設したことがある。当時、体育界の不条理を清算する力を出さなかった人が腕章をつけて出しゃばっていた時代が記憶に新しい。

その後も国家代表出身の柔道ワン・ギチュン選手の性暴行事件やトライアスロン崔スクヒョン選手死亡事件などが相次いで発生した。驚いた政府はあらゆる手段と方法を動員して再発防止対策に頭を痛めているが、幼い時から友人、先輩、コーチ、監督そして形だけの体育人から学んだ悪い行動と態度を根絶するには力が及ばない形である。

一部の人の中にはスポーツ界でかんばしくない事件が起きたら、当然、最近軍隊でもしていないことをすると言って舌を巻く。筆者が見るにスポーツ界の問題は、無知の怖さ知らずでも、また鞭に打たれ強いことよりも、金メダルという目的のためにすべての手段が正当化され、知りながら黙認し、ほう助した結果だと思う。何人かの体育学者、マスコミと政治家の中で、スポーツ界で繰り上げられる腐敗の根本的な原因を成績至上主義による結果だと解釈する人が多い。うなずける部分もありますが、その罪質の様子と強度を見ると、必ず成績至上主義が原因だと解釈するには無理がある。

金フン作家はH新聞のコラムで「国語・英語・数学は龍の地位に上がる梯子であった。龍とはしごだけ教え、小川の源流や流域、水質は教えなかった」と指摘したことがある。体育も同じだ。金メダルを取る事教えただけで、人権を含む「思考の筋肉」を育てたことがない。

体育人と一般人の集団思考の間隔を狭くする方をじっくり考えてみた。体育人の中からも体育の現在を越えて未来を担う体育指導者の認識構造（レベル）を変えることが最も急がれるという気がした。これは荀子の勸学篇にある「土を積んで山を作成すると（積土成山）、雨や風がそこに起こる（風雨興焉）」という文言を見て思いついたものである。私たちの社会は100年の間に金メダルを取るのに必要な土を積んで世界10位、スポーツ強国の隊列に上がった。金メダルを取るのに必要な土を積んでスポーツ強国になったように、人文哲学の知識という土を積んで「考えの筋肉」を育てれば「天を巻物で埋め、海を墨で埋めても全てを記録することができなかった」不条理と不正腐敗が常識のレベルで管理される。

現政府は「スポーツ強国からスポーツ先進国」に進もうと叫んでいる。政治スローガンではなくスポーツ界の真の変化のためには、スポーツの革新委員会の勧告はもちろん、長い間内在された集団思考を変化させられる人文哲学教育が必要であるというのが筆者の主張である。競技力向上中心教育と共に「思考力」を養えるカリキュラムが開設されることを望む。人文哲学教育を通じて「思考力」、「思考の筋肉」が育てられれば必ず「目を覚ました体育人」に生まれ変わると確信している。世の中に揺らぐことなく咲く花がどこにあるのか。

出典：<http://www.kookje.co.kr/news2011/asp/newsbody.asp?code=1700&key=20201217.22017003198>

## 09 世界日報 2020.12.19

### 子供のための「考えるスポーツ人権教科書」出版



スポーツ現場での学生選手の人権侵害問題が続く中、これを改善するための本が出た。  
18日、韓国方定煥財団は10名のスポーツ人権専門家と一緒にスポーツ人権の概念と実現方策を盛り込んだ「考えるスポーツ人権教科書」を出版した。子供からスポーツ人権を正しく知ろうという趣旨だ。

この本は△スポーツ人権がなぜ重要ですか？ △運動選手は勉強しなくてもいいですか？

△私たちが皆安全にスポーツを楽しもう △暴力に苦しむ選手の心の中で起こること

△障害者が平等にスポーツを楽しむ方法 △性平等なスポーツが実現される世界 △正々堂々と競うスポーツ △運動部保護者に伝えたい話 △子供を導くスポーツ指導者のために △スポーツが与える平和という贈り物など10のテーマで構成された。

著者には、昨年のスポーツ人権問題に対応するための官民合同機構であるスポーツ革新委員会に参加した李デテク国民大教授、ジョン・ヨン Chol西江大教授、ジョン・ウォンス聖公会大教授、ハム・ウンジュ博士（文化連帯）、ホン・ドクギ慶尚大教授と金ヒヨンス国家人権委員会スポーツ人権特別調査団長、ミン・ソリナサレ大教授、崔スンピョウリ野球協同組合代表、金ドンヒョク人権とスポーツ代表、イム・ハノル韓国教育開発院研究員などが参加した。

韓国方定煥財団の李サンジン事務総長は、「この本はすべての子供の人権が保護される楽しいスポーツ環境で運動しなければならぬ学生選手のためのものであるため、収益は低所得層の子供のスポーツ、文化、芸術教育のための奨学事業に使われる」とし、「新型コロナウイルス感染症の拡散と寒い冬の天候に萎縮した子供たちが力強く跳び遊べる基礎になることを願う」と述べた。

財団は子供を対象にした「考える教科書」シリーズを継続的に出版している。今回の「考えるスポーツ人権教科書」は、「考えるサッカー教科書」、「考える野球教科書」、「考えるオリンピック教科書」、「くねくねしたカーリング教科書」に続く5回目だ。

出典：<http://www.segye.com/newsView/20201218513967?OutUrl=naver>

## 大韓体育会長選挙関連

### 不正選挙情報提供案内

体育市民連帯は大韓体育会長選出選挙期間中に発生する

不法・不正選挙行為について情報提供を受け付けます。

公正で透明な選挙運動を通じて道徳的で信頼を受ける候補が選出されるよう

皆さんの積極的な情報提供をお願いします。

<情報提供事項>

- 会長選挙管理規定を違反した選挙運動
- 候補者誹謗、中傷、人身攻撃、名誉棄損、虚偽事実の流布、中傷宣伝など
- 候補者の資質と道徳検証が必要な事項

電話 02-2279-8999 メール sports-cm@daum.net

※情報提供者の匿名性と身分は徹底的に保証されます。

## スポーツ界人権侵害情報提供および支援活動案内



体育市民連帯は

「トライアスロン選手死亡事件共対委」と

「民主社会のための弁護士会スポーツ人権チーム」所属

10数人の人権弁護士の方々と一緒に

被害者相談および法律支援活動をします。

スポーツ界人権侵害情報提供がされたら

初期相談を通じて法律支援が必要な方々を支援します。



下のアドレスに情報提供して下さい。

共同対策委員会



[forsportsreform@gmail.com](mailto:forsportsreform@gmail.com)

体育市民連帯



[sports-cm@daum.net](mailto:sports-cm@daum.net)

## 体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と  
福祉実現のために努力しています。  
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための  
体育市民連帯活動に強固な土台となります。  
体育市民連帯会員として力になろうと  
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

[http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT\\_FORM&inquiryNo=2](http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&inquiryNo=2)

### INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : [sports-cm@hanmail.net](mailto:sports-cm@hanmail.net) ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 [jr1fep@gmail.com](mailto:jr1fep@gmail.com)